

給付金、届きましたか？

全市民にひとり10万円を支給する「特別定額給付金」。鈴鹿市では5月13日の臨時議会でコロナ対策の補正予算を可決、市内全世帯へ19日から申請書の郵送を開始し、わが家には23日に届きました。折り返し申請書を記入した方から市役所に毎日、山のように届く申請書類を、特設された「給付金室」のスタッフが、受け付け・審査し、まとめて口座に振込む作業がいま続けられています。

6月4日には第2回目の振込がされますが、処理スピードが間に合わないと思週に回ります。まだ届かない方は、もう少しお待ちください。また、申請書に不備がある方には、（詐欺の防止のため）電話ではなく郵送で問い合わせがあり、それからの振込になるので遅れます。これから申請する方は、本人証明と振込口座の書類コピーなど確認をお忘れなく。

10万円の給付金を受け取るのは、国民の権利です

今回の給付金の予算は鈴鹿市で約200億円（10万円×20万人）、本年度の一般会計当初予算645億円が、コロナ関係の補正予算（第1~3号）も入れると866億円（34%増）に膨れ上がります。この数字を見て、市財政は大丈夫かとの声もありますが、心配には及びません。

200億円は全額が国から出るもので、3号補正までの総額で「国庫支出金」は210億円の増、市の「財政調整基金」からの繰り入れ増は8億円で、それも国からの交付金が追加されれば減額になるかもしれません。

もともと安倍首相は、昨年10月の消費税増税のとき、「リーマンショック級の経済不況が来たら増税はしません」と明言していました。「コロナショック」は、リーマン級どころではなく、直ちに減税すべき情勢です。市民の皆さんへの影響は様々ですが、所得税・市民税がかからない低所得の方でも、実は消費税10%を毎日負担しています。最低限度の生活水準（月10万円程度）の方でも、消費税年額12万円も負担しているのです。今回の10万円は、払った消費税の返還と考えれば、当然の国民の権利です。

1万円得するプレミアム付商品券を販売

市のコロナ対策事業の第2弾として、プレミアム付商品券（鈴鹿まるごと応援券すずまる）が、4日の市議会本会議で補正予算（第2号）として即決される予定です。その仕組みと流れは、次のとおりです。

この目的は、コロナの影響を受けた店での消費を促進すること。

市民は最大2万円で3万円分の買い物ができ、1万円の得になります。

発行冊数は8万冊、購入できるのは1人4冊まで。2万人分以上あります。

事業は鈴鹿商工会議所に委託して行なわれます。

商品券の購入を申し込む 7月1日～20日

用紙は市広報6月20日号、市民センターなどで取れます。

応募が多いときは抽選で決定 購入引換ハガキで通知 8月3～4日

1冊7,500円の商品券を5,000円で販売（1人4冊まで）

市内の金融機関で、引換ハガキと現金で購入 8月7日～11月1日

市内事業者(応募した者)で消費 8月7日～R3年9月末まで
コンビニ、スーパー、ドラッグストア、量販店は除く

学校トイレ洋式化、4校の工事追加

小中学校トイレ改修事業の本年度予定が2校だったのが、国の補助が拡充され来年度予定の4校を前倒し追加、合計6校になります。

当初予算で工事予定の学校 桜島小 神戸小

補正予算で追加された学校 明生小 箕田小 栄小 鼓ヶ浦小

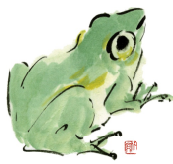
小中全学年に1人1台のタブレット 配備を前倒し

市内の小中学校の全児童生徒に1人1台のタブレット端末配備も、国の予算追加によって、いっきに前倒し、全員分の配備完了となりました。

当初予算での配備 小5、6年 中1年

追加予算での配備 小1, 2, 3, 4年 中2, 3年

ずいそう



「マスク」について考える

コロナ感染防止のため、みんなが一日中マスクをつけて生活するのが普通になっています。うっかりマスクするのを忘れて店に入ったりすると、何か人から白い目で見られてるような気がして、超短時間で出てしまいます。

また朝夕の犬の散歩の時でも、田舎道で誰にも会わないのにマスクしている人もけっこういて、日本人の真面目さなのか、同調圧力に用心しているのか、妙に感心してしまいます。

近ごろは、白いマスクだけでなく色も柄もとりどり、手作りマスクも一種のブームになってきて、街を歩くとしゃれたマスクファッションに出会えて楽しいですが、ひょっとしてコロナが収束しても化粧マスクは残るんじゃないか？世の女性がみんな、年中マスクで顔を隠して出歩くのではないかと、すると化粧品屋さんはどうなるんだろうかと、心配にすらなってきました。

マスクとは？ = 身を守るもの = 正体を隠すもの

子どものころ、家にテレビが入って夢中になって見ていた番組「まぼろし探偵」(1959~60)。少女の吉永小百合が出ていて、今も憶えている主題歌“赤い帽子に黒マスク、黄色いマフラーなびかせて…”気になって調べてみると「黒マスク」は、鼻や口でなく目の周りを隠していたものでした。広辞苑でマスクを引くと「仮面」との意味で、同じく当時の人気番組「月光仮面」は、きちんと鼻と口を覆っていて現在の形に近いものでした。いずれにしても共通するのは“マスク = 正体を隠すもの”という意味です。

一方、もう一つの意味は捕手がかぶる「キャッチャーマスク」やフェンシングの面のような防具。身にかかる危険から守るために着けるもので、今のウィルス感染を防ぐマスクに通じます。

3つ目の意味は「甘いマスク」のように顔立ち、容貌を示す使い方。いいマスクの俳優や歌手が、マスクして芝居したり歌ったりしても、果たして感動しますか？その人の「表情」全体が感動を呼ぶのではないのでしょうか。

私のように全然「密」でない田舎に住んでいる者は、マスクという窮屈なものがイヤで仕方がないのです。一日も早くコロナ禍が収まって、元のように皆が素顔で楽しく交流できる「普通の生活」を取り戻したいと切望します。